

浦安つ子の今 調査から見える

浦安市学力調査結果

小学4年生と中学2年生を対象に、市独自の学力調査を実施しています。本調査は実施した学年だけでなく、学校全体での学力向上を目的としており、調査結果から、今の浦安の子どもたちの学習や生活の様子が見えてきます。

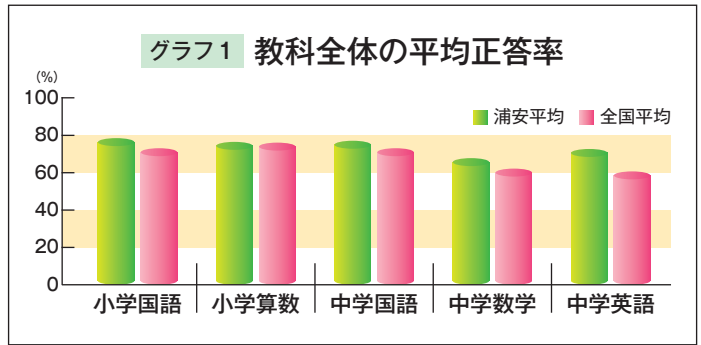
富岡中学校 英語科担当 岩瀬先生

将来、英語から離れていても戻ってくる場所(辞書)がある。辞書をきっかけに、再び英語に取り組めるようになってほしいです。



生活の中で使いながら身に付ける～課題と成果

本年度の浦安市学力調査の結果は右グラフに示すとおり、どの教科も全国と同程度、または上回る結果となりました(グラフ1)。



例1 余りを正しく処理する(小学4年算数)

【問題】りんごが52こあります。このりんごを全部箱に入れます。1箱に6こずつ入れていくと、箱は何箱いりますか。

【正答】9箱 【誤答例】8箱あまり4

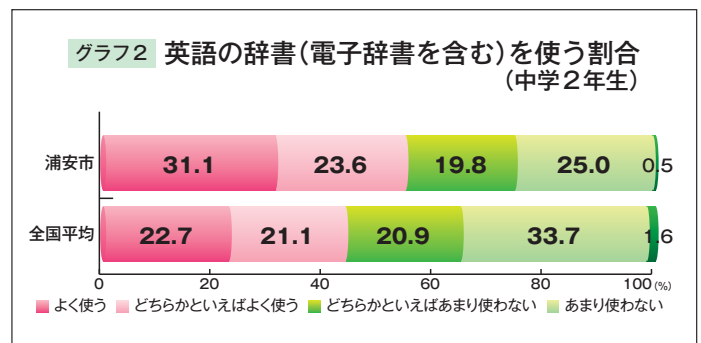
昨年度は、国語の「漢字を読む・書く」に課題が見られ、様々な学習・生活場面で漢字を

読む・書く力を身に付けることに重点を置いて指導改善を行いました。本年度は全国平均を上回り、各学校での取組が成果となって表れています。

一方、本年度は、「算数の余りを処理し正しい答えを求めること」などに課題が見られました(例1)。生活場面を想起し、問われていることは何かをつかむ力を育てることが大切だということがわかりました。

自分で調べる力を育てる～特色ある辞書活用の取組

学習や生活の中で、わからないことがあったら自分で調べるという習慣を身に付けることが、学ぶ力の向上につながります。



辞書の活用に関する調査では、英語の辞書をよく使う浦安市の中学2年生は、全国平均を大きく上回っています(グラフ2)。

富岡中学校の英語の授業では、毎時間、最初の10分程度、辞書で調べないとわからない単語の入ったクイズを解くという取組を行っています(写真)。ペアで英和辞典を使って問題を解き、次に和英辞典を使って答えを英訳していきます。

この取組を続けることで辞書を引くことへの抵抗感が少なくなり、わからない単語があると、積極的に辞書を使って調べる姿が見られるようになりました。

*平成26年度の結果は市ホームページ(教育情報)でご覧いただけます

教育委員会では、本年度も結果の分析と対策について協議を行うとともに、調査学年だけでなく学年間、小・中学校間の学びの連続性をふまえた学力向上の手立てについて、大妻女子大学 准教授の樺山敏郎氏より助言をいただきました。今後、全国学力・学習状況調査の結果とともに分析を行い、更なる学力向上に取り組んでいきます。